



AIYES 通信

横浜スペイン協会会報

発行：横浜スペイン協会 横浜市鶴見区岸谷 2-18-4 年2回発行（1月,7月）

年頭のご挨拶

横浜スペイン協会 会長 下山利明

2025年の新しい年を迎え、皆様方のご多幸を心からお祈り致します。

昨年を振り返りますと、協会の広範囲に渡る事業活動が活性化して、とても多忙な1年となりました。特に、国際交流と対外交流に関しては、多くのイベントが開催されました。特筆すべきは、一昨年のロンダ市訪問に続き、昨年5月に過去3回(2015, 2017, 2018年)に渡りさくら植樹をした、レオン県ビエルソ郡近郊を訪問し、桜の生育状況の確認と現地関係者との交流です。また、スペイン大使館関係では、ナショナルデーのセレモニー出席(10月)。Miguel Gómez de Aranda 公使参事官、新任の Fernando Curcio Ruigómez 文化科学参事官、両ご夫妻を横浜へお招きして故 Francisco José del Castillo 元大使の外人墓地墓参と歓迎会の開催(12月)。対外交流では、名古屋・山形の両交流協会とスペイン語学科を有する神奈川大学の訪問と情報交換等(11月)。また、スペイン文化事業関係では、スペイン語13クラスの対面授業と特別講座の開催。スペイン・サロンは3回の文化講演会、そしてスペインサークルでは、スペイン文学に親しむ会と会員のスペイン訪問体験共有の場である旅の会を毎月開催しました。昨年の年頭のご挨拶でも触れた課題である、会員の高齢化、スペイン語クラスの生徒数の減少、経営的な課題につきましては、知恵を絞って対策を講じ、クラス生徒数の増加、授業料の見直し等により大幅に改善されました。残された一番の課題は、会員の高齢化と協会運営を担う理事のなり手不足です。当協会の運営は全て会員のボランティアで行われています。現在、会員80名で日本全国における友好団体の中においても最大規模であります。今後、更なる会員の皆様の積極的なサポートを期待しております。現状をご理解の上、今まで以上のご支援のほど、どうぞ、よろしくお願い致します。

2025年 横浜スペイン協会 活動計画

	総務・企画	スペイン語教室	スペイン・サロン	スペインサークル	会報
1月		新聞クラス特別公開講座		*旅でスペインを識ろう会	新年号
2月	新春親睦パーティー (2/1)	クラス委員会		毎月第2月曜日	
3月			文化講演会	(8月はお休み)	
4月		前期講座 開始			
5月	定時総会 (5/31)			*スペイン文学に親しむ会	
6月		新聞クラス特別公開講座			
7月				*巡礼サークル	夏号
8月		夏期文化講座			
9月			文化講演会		
10月	National Day 式典	後期講座 開始			
11月					
12月					

● 対外交流

◆ 山形スペイン友好協会 訪問

2024年10月5日(土)

芋煮会といえば、山形の秋の風物詩ですが、10月5日(土)に山形スペイン友好協会が開催した芋煮会に招かれて、下山会長と参加してきました。場所は山形駅から東に車で10分ほど行った「馬見が崎河川敷公園」。芋煮会を楽しむ多くのグループが集うメッカのような場所です。10月初旬とは思えない真夏のような強烈な太陽の下で約40人の会員が集まり、到着時には手慣れた感じで準備が進められていました。



そして参加者全員が揃った正午頃に、友好協会の武田会長の挨拶、下山会長の来賓スピーチでスタート。山形の芋煮の味付けの特徴は、宮城県の芋煮のような醤油での味付けはせず、出汁の旨味を十分に生かすこととか。その味は絶品でした。スペイン関連の協会に相応しく、ワイン、シェリーとタパス風のおつまみが出され、また芋煮と並ぶイベントの目玉の(大きなフライパンで2杯のお米で調理された)パエリアが出されたときは大喝采でした。



山形スペイン友好協会は登録会員数が60名を超えている大所帯ですが、会員が楽しめるイベントや講座を数多く開催しています。スペイン語が堪能な会員も多く、活発な運営をされていることを知り、有意義な1日となりました。(大戸正彦)

◆ ナショナルデーレセプション

2024年10月10日(木)

於:スペイン大使館

今年も恒例になっている、スペイン大使館主催のナショナルデーレセプションにお招き頂き、協会の代表として家内と出席して参りました。当日の天気は爽やかな秋晴れ、絶好の大使館中庭園での屋外パーティー日和。参加者は国会議員、関係省庁の幹部、各国大使館、民間企業幹部、スペイン友好協会関係者、日本在住のスペイン国民など、数百人レベルでとても華やかな雰囲気でした。冒頭、スペイン国歌と日本国歌が演奏され、センダゴルタ駐日スペイン大使、城内実経済安全保障大臣、柘植芳文外務副大臣からの挨拶に続きセンダゴルタ大使による乾杯のご発声が行われ、歓談時間へ。当協会の名誉会長であるセンダゴルタ大使と大使夫人にご挨拶をさせて頂き、その後8月に着任された、クルシオ文化科学参事官にお目にかかることが出来ました。私は、以前よりスペイン大使館が中心となって全国の友好交流協会が一堂に集まれるような場をつくって頂きたいと思っており、今回、このご提案をしたところ、来年のナショナルデーの時にその場の設定を前向きに検討するとのお言葉を頂き、大変嬉しく思いました。このような場は、スペイン大使館と我々、友好交流団体との交流を深め、交流活動に対する大きなモチベーションアップにつながるものと確信しております。年を追うごとに当協会の活動に対するサポートを頂いた方々が増えていき、しばらくお目にかかれていなかった



沢山のスペイン友好協会関係者とお互いの近況報告、情報交換を行える貴重な場でありました。最後に、大使館訪問の際には、毎度のことながら当協会が創立15周年(2005)と30周年(2020)記念に庭園に寄贈させて頂いた横浜緋桜の木が順調に育っているのを忘れずに確認しました。



下山のスペイン友好協会関係者とお互いの近況報告、情報交換を行える貴重な場でありました。最後に、大使館訪問の際には、毎度のことながら当協会が創立15周年(2005)と30周年(2020)記念に庭園に寄贈させて頂いた横浜緋桜の木が順調に育っているのを忘れずに確認しました。

(下山利明)

◆神奈川大学訪問

2024年11月18日（月）神奈川大学横浜キャンパス（六角橋）

当協会は、対外交流の一環としてスペイン語学科を有する神奈川大学と交流を行ってきました。（スペイン語圏、留学生の新春親睦パーティー参加、スペイン語学科の先生によるスペイン・サロン講演会の実施等）今回、小熊誠学長様とのご面会の機会を頂き、大戸理事、原理事の3名にて横浜キャンパスに伺い、色々なお話をさせて頂きました。2022年6月以来、2年半ぶりの訪問です。ご面会の目的としては
1. 新役員のご挨拶 2. 当協会の活動のご紹介 3. 神奈川大学様と当協会とのコラボレーション可能な領域についてのご相談です。具体的なコラボレーション領域のテーマ候補は、①スペイン、スペイン語圏の留学生との交流②スペイン語クラス（13クラス主催）ご紹介③スペイン協会の活動を通じた文化交流のボランティア活動への参加④スペイン語学科とのコラボレーションで、広範囲にわたるテーマなので、まずは大まかな方向性を確認させて頂き、各論は別途、担当ベースにて詳細をつめさせて頂くというステップになります。学生を中心とした若い世代の方々との交流拡大に大いに期待しております。今後の活動がとても楽しみです。（下山利明）

◆ミゲル・ゴメス・デ・アラナダ公使夫妻、フェルナンド・クルシオ・ルイゴメス文化科学参事官ご家族と故フランシスコ・ホセ・デル・カスティージョ大使の墓参

2024年12月7日（土）

先日スペイン大使館で開催された「四国遍路とサンチャゴ巡礼の道展」において新任のクルシオ文化科学参事官と下山会長が協会の様々な活動について話をされた際に横浜外人墓地に埋葬されている故カスティージョ大使の墓参を提案したところ、去る12月7日にそれが実現したのでご報告します。

当初はクルシオ文化科学参事官ご家族だけ来られる予定でしたが、その後ミゲル・ゴメス公使夫妻も同行されたいとの意向があり、大使館の色川さんも含めた

6名が参加されることになりました。当協会からは下山会長夫妻ほか、理事と先日の巡礼の道展を訪れた会員の計9名が参加しました。当日は晴天に恵まれ、外人墓地での墓前ではいつものスペイン国旗の赤と黄色をイメージした花輪を捧げて故人のご冥福をお祈りした後、港の見える丘公園、英国館のバラ園を散策して中華街で懇親会を行い、全員で和やかに歓談することが出来ました。懇親会では下山会長より当協会が1991年6月18日故カスティージョ大使の命日にスペイン大使館と共催で行った墓参以降、大使が交代される都度墓参をアレンジしてきたこととお話しし、公使と文化科学参事官から謝意の表明がありました。（岩田岳久）



◆「2024 年日本・スペイン交流懇親会」

～主催 名古屋スペイン協会/在名古屋スペイン国名誉領事館

2024 年 12 月 12 日 於 名古屋名鉄グランドホテル

今年も、年末恒例の名古屋スペイン協会/在名古屋スペイン国名誉領事主催、交流懇親会にお招き頂き、出席して参りました。名古屋駅の新幹線口から会場のホテルに至る道中は、沢山の人で溢れ、駅前には LOEWE 等の高級ブランドのお店が立ち並び華やかで、名古屋経済の盛況を伺い知れる事が出来ました。会が始まり、名古屋スペイン協会、祖父江茂樹副会長のご挨拶、乾杯のご発声後、歓談の時間へ。その後、友好協会を代表して挨拶の機会があり、当協会の近況等を紹介させて頂きました。美味しいお料理とワインを頂きながら、抽選会もあり、名古屋スペイン協会の沢山の会員の方々を始め、ご列席の日本スペイン協会、山形スペイン協会、関係者様とのお話が出来て、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。今回は、2016 年に私が会長就任の年に初めて参加して以来、6 回目の参加です。年を重ねると共に、両者の交流は進み、当協会の新春親睦パーティーにも毎回ご参加頂き、大使館のイベント等においてもお目にかかる機会が増え、情報交換等、交流が更に深まって来ています。(下山利明)



●スペイン語クラス

◆「新聞雑誌をスペイン語で読むクラス」特別公開講座のご報告

6 月 22 日に開催された特別公開講座『スペインの世界遺産「Antequera, Lugo, Las Médulas」について』に参加しました。講師の Juan Carlos Kirk 先生は多言語に堪能で、世界遺産や歴史の研究者としても著名です。これまでに約 100 ヶ所の世界遺産を訪れた豊富な知識を共有していただきます。まず、マラガ県の Antequera のドルメン遺跡群について。Menga、Viera、Romeral のドルメン(支石墓)は、6000 年以上前から人が住んでいた証拠を示す貴重な遺跡で、巨大な蓋石が数本の石の柱で支えられています。年に 2 日は部屋の中心部まで太陽の光が届く設計になっているものもありました。El Trocal や La Peña de los Enamorados の自然の景観も素晴らしかったです。ガリシア地方 Lugo のローマ時代の城壁は、紀元 3 世紀 4 世紀のローマ帝国後期に建設されたもので、スライドに映る城壁は上部が散歩道に整備されており、とてもきれいに残っていました。最後に紹介されたレオン県にある Las Médulas は、帝政ローマ時代に最盛期を迎えた金鉱山跡地で、大量の水で土砂と一緒に金を押し流し採取する特殊な方法によって山が削られた結果、現在のダイナミックな景観ができたとのことでした。私にとってはすべて初めてのスポットで、スペインのこのような壮大な建造物に驚きと感動の連続でした。皆さんにもぜひ検索して写真を見ていただきたいです。講座の参加者の中には行ったことがある方が多くいらっしゃいましたので、私もいつか訪れることを楽しみにしたいと思います。(関 恵子)



◆第14回夏季スペイン語文化講座に参加して

2024年8月 かながわ県民サポートセンター

本年6月に会員になり、協会より本講座の案内をいただき参加。スペイン文化への興味、特に夕日を浴びたアルファンブラ宮殿に魅了された私にとって、この講座のテーマは興味深いものでした。イスラム教とアラブ人、ユダヤ教とユダヤ人がスペイン文化に与えた影響は、長い歴史的背景があり、特にレ・コンキスタ以前のスペインは、両宗教に対して寛容であり、そのことが数多くの文化遺産を産んだことを講師 Prof. Victor Pérez Villuendas に証左いただきました。ト



レドの“サンタ・マリア・ブランカ”やアンダルシアの建築物、そしてその影響は“フデオエスパニオル”という言葉にまで及んでいるとの説明は、新鮮な驚きでした。宗教に対する寛容性を持つことは、文化の発展を育成すると感じた次第。もう一つのテーマ“スペイン世界遺産紹介”は、講師 Prof. Juan Carlos Kirk の軽妙な講義に引き付けられました。分かりやすいスペイン語による魅力溢れる講義でした。Cuevas de Altamira の rupestre (岩壁に描かれた絵)を見た巨匠ピカソが“紀元前1500年前から、絵画は発展していないな”と語ったという逸話は愉快でした。

この二つの講座ともに一層スペインの文化遺産に対する興味を掻き立てる内容でした。企画、運営にあたった協会の皆さんに感謝しております。(横山茂郎)

◆新クラスのご案内

～下記の2クラスをご案内します。

お申込みは、メールにて承ります。

● 「新聞雑誌をスペイン語で読むクラス」特別公開講座

日時：2025年1月25日(土) 10:15～11:45

会場：波止場会館1階多目的ホール

演題：《 Actualidad política, social y económica de Argentina 2024 》
《 2024年アルゼンチンの政治・社会・経済の現状 》

講師：Diego Barbanente (Buenos Aires 大学)

参加費：1500円(会場でお支払いください) お申し込みは下記メールアドレス宛にて

お申込方法：「新聞クラス公開講座申し込み」と記載の上1月18日まで

spanish_class@yokohama-spain.jp

● 平日金曜日午後の入門講座「アスセナクラス」開講

4月4日より毎月第1、2、3金曜日15:00から16:30の90分、スペイン語を初めて学ばれる方、および一度学んだことはあるが、もう一度初めから学びなおしたい方向けの「アスセナクラス」を開講する予定です。入門講座は、2年毎にしか開講しておりませんので、是非この機会にお知り合い方にお声をかけていただけたら幸いです。

受講の申し込みや講義内容等に関するお問い合わせは次のスペイン語クラス担当者のアドレスあてメールでお願いします。

spanish_class@yokohama-spain.jp (岩田岳久)

●スペイン・サロン

◆「サルスエラとタンゴ」

2024年10月18日(金) 14:00~15:00 KAWAI 横浜プラージュ

桜田ゆみさんによる音楽世界紀行であった。紀行風に綴る。最初はオーストリアに着陸、モーツァルトの「フィガロの結婚」より「恋とはどんなものかしら」。次いで我がスペインに入り、バレンシア→マドリッド→セビリア→グラナダと続く。マドリッドでは「ラバピエスの理髪師」を歌ったので、次のセビリアでは「セビリアの理髪師」かと思いきや、「カルメン」より「ハバネラ」を選んで意表をつく。次はフランスに飛ぶ。レハールの「メリー・ウィドー」よりワルツ「唇は黙っていて



も」。おーっとここでいきなり大西洋を渡った。しかし北米に行く訳ではない。もちろんスペイン語圏だ！メキシコだ！ボンセの曲を歌う。次はアルゼンチンに移動してタンゴ（コンチネンタル・タンゴ）。桜田さんはこれまでオペラ、オペレッタ、サルスエラを実践されている中で、物語的にハッピーエンドで終わることの多いサルスエラが一番ご自分に合っていると仰っていた。桜田さんらしいなと思う。洒落なMCも含めて、文化の秋の良き一日でした。（坂間至朗）

●スペインサークル

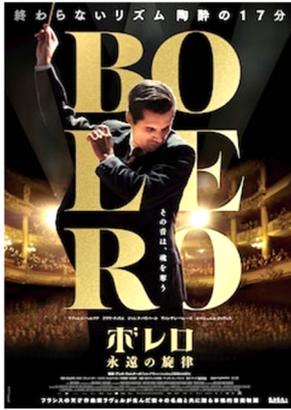
◆旅でスペインを識ろう会

- ① 2024年7月8日(月)
「そうだスペインに行こう」開催（古賀、平本、園部、白井さん）
- ② 2024年9月9日(月)
「サンティアゴ巡礼1000kmの徒歩の旅」開催（問屋さん）
- ③ 2024年10月21日(月)
「かわいそうな支倉常長と植樹した桜の木はどこ？」開催（胡桃澤さん）
- ④ 2024年11月18日(月)
「レオン州さくら植樹、あれから9年、生育状況確認結果はいかに？」（前半）
「ガリシア州レンタカー1300km走行 パラドール他旅行記」（後半）開催（下山会長ご夫妻）
- ⑤ 2024年12月9日(月)
「サンティアゴ巡礼と医療通訳」開催（問屋さん）



●シネマサロン

モーリス・ラヴェル (1875~1937) の名曲「ボレロ」はどのようにして生まれたか?



2023年 監督：アンヌ・フォンテーヌ

母親がスペイン・バスク出身であることから、スペイン音楽に強く魅かれていたラヴェルは、バレエダンサーから依頼されて作曲に取り組むが、思うようなものができない。アルベニスの音楽等からヒントを得ようとし、苦しみ、ようやく「ボレロ」が出来上がる。この曲でダンサー（女性）が踊るのを見て、最初から納得できない。この曲が好評を得ても悩み苦しむ。人生の最後までこの曲に翻弄され苦しみ、深く傷つき悩む人生だった。彼がイメージした場所はセビージャの酒場。一人の踊り子が同一のリズムが保たれる中で2種類の旋律が繰り返される中で踊りだす。段々と激しい踊りとなり、居合わせた客が踊りに参加していく—と言うものだそうです。1961年フランスの振付師・モーリス・ベジャールにより振り付けられた「ボレロ」は世界的な評判を得た作品になり、許された人だけが踊ることを許された—という。円形の赤い台の上で許されたダンサーが一人で踊り、最初は静かにやがて速く激しく進んでいく。台の下ではそれを取り巻く群衆が彼をたたえるように踊る。時代が待っていたとしか思えない「極限の音楽」にして「不朽の名曲」、ラヴェルの魂を奪った「魔の名曲」と称えられる「ボレロ」。その許された踊り子として、ジョルジュ・ドンが評判を独占、女性のシルヴィ・ギエムは引退公演として日本でも「ボレロ」を踊った。ラヴェルの作品には「スペイン狂詩曲」、「ダフニスとクロエ」（バレエ曲）、「亡き王女のためのパヴァーヌ」（ピアノ曲）などがありますが、この王女とはベラスケスの「ラス・メニーナス」や「青いドレスのマルガリータ」（フェリーペ4世の王女）の王女マルガリータをイメージして作られたそうです。今年のパネチア映画祭の金獅子賞をペドロ・アルモドバルの「ザ・ルーム・ネクスト・ドアー」が受賞したとのニュースがありました。日本公開は来年でしょうか？なお、最近文庫化されて話題になっているコロンビアの作家 ガブリエル・ガルシア・マルケス（1927~2014）（1982年にノーベル文学賞受賞）の小説「百年の孤独」（Cien Años de Soledad）があります。読むには登場人物が多く、長い物語で大変なのですが、Netflixで映画化が準備されているそうです。彼の作品で映画になったものに「予告された殺人の記録」（1987）と「コレラの時代の愛」（2007）があります。（松本益代）

●会員活動報告

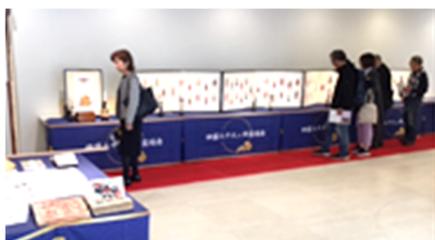
◆「四国遍路とサンティアゴ巡礼の道」展 開会式

2024年11月6日 スペイン大使館展示室

当協会の会員で、サンティアゴ巡礼の第一人者である問屋正勝氏がコーディネーターをしている「四国遍路とサンティアゴ巡礼の道」展開会式に参加して参りました。冒頭、ゴメス公使参事官のご挨拶に始まり、来賓関係者のお話が続き、その後軽食とスペインビール、ワインにて立食ランチ。顔見知りの方々と巡礼話で盛り上がり、楽しい時間を共有出来ました。最近、遠く離れた日本とスペインのこの二つの巡礼路にひかれて、両方を歩く人が増えているとの事。私も2018年に問屋氏と冬の道巡礼にご一緒させて



頂き、約280km歩きました。会場には問屋氏が撮影した沢山の美しい巡礼路の景色、地元のレストラン、料理等の写真も展示されていて、とても懐かしく拝見させて頂きました。（下山利明）



*** 協会からのお知らせ ***

◎ 《年会費振込のお願い》 *重要

2025 年度会費を、下記要領にてお振込みのほど、よろしくお願いいたします。

1. 年会費 会員 3,000 円 賛助会員 10,000 円
2. 振込先 みずほ銀行 鶴見支店 (店番号 362)
普通預金 口座番号 2518340
口座名義 横浜スペイン協会
3. 振込期限 2025 年 3 月 25 日 (2025 年 1 月 1 日より振込受付開始)

《注意事項》誠に恐縮ですが、振込手数料は会員様にてご負担をお願いいたします。

振込期限までにお振込み頂けた場合、2025 年度ホームページの会員専用ページへのアクセスパスワードをご連絡いたします。

◎ 《新春親睦パーティーのお知らせ》

日時：2025 年 2 月 1 日 (土) 12 時 30 分～14 時 30 分

会場：KKR ポートヒル横浜 4 階 ラ・メール (港の見える丘公園隣)

口笛コンクール世界チャンピオン青柳呂武氏の演奏会や楽しいビンゴゲームを予定

*詳細はホームページにて掲載いたします。

年 1 回会員一同が集まり親睦をはかる重要なイベントです。皆様のご出席をお待ちしています。

<< 賛助会員各社の会員サービス内容 >>

◆会員証の提示で、下記賛助会員企業より表記のサービスが受けられます。

賛 助 会 員	住 所	☎番号	会員サービス
カサ・デ・フジモリ 関内本店	横浜市中区相生町1-25	045-662-9474	サングリア 1 杯無料
Bar Español	横浜市中区相生町2-43-2	045-651-1074	サングリア 1 杯無料

《編集後記》 昨年の出来事の中で、スペインでの特筆すべきことの一つにバレンシアの洪水があります。日本にいても、テレビでその被害の様子がたびたび放映されていました。まるでパニック映画のようで、現実の事とはにわかに信じられないほどの衝撃映像でした。日本でも、元日の能登の地震、記録的猛暑、局地的大雨…など自然災害が多くあった年でした。バレンシアや能登で被災された人々の穏やかな新年を祈るばかりです。そろそろ富士山が噴火するかも？などと噂されていますが、天変地異はいつどこで起きるかわからないものです。ただ、地球の温暖化は人間の努力で食い止められるはず。それを少し意識することを、新年の抱負にしてみようと思います。(A.S)

編集長/下山綾子 編集委員/ 岩田岳久 大戸正彦 下山利明 原健三郎 松村清

【投稿寄稿宛先】 メールアドレス 全般： info@yokohama-spain.jp
スペイン語教室： spanish_class@yokohama-spain.jp
スペイン・サロン： spain_salon@yokohama-spain.jp
横浜スペイン協会 ホームページ： <http://www.yokohama->